令和２年度あいちラーニング推進事業研究報告

学校番号　　１２２
学 校 名　　愛知県立西尾東高等学校
校長氏名　　馬場　　茂

研究責任者職・氏名	教　諭・木村　頼洋	事務担当者職・氏名	主　査・　田村　慎
研究テーマ	「主体的・対話的で深い学び」を推進し、主体的に学習する生徒の育成に向けた取組		
本年度の研究目標	(1)「主体的」とは何か、「対話的」とは何かを教職員一人一人が考え、「主体的・対話的で深い学び」について、教職員全体で理解を深め、学校全体として授業改善に向けた取組を実践する。 (2) 理数教科を中心に授業に探究的な活動を積極的に取り入れ、主体的に課題を解決する能力を育成する。 (3) ＩＣＴ機器を利用し、様々な諸課題を多角的、視覚的に捉える能力を育成し、対話を深めながら学びを追求できる、集団形成を目指す。 (4) １、２年生の「総合的な探究の時間」において、「生きる」とは何かを考え、積極的な言語活動を取り入れた授業を実践し、教科横断型かつキャリア教育の充実も図った授業を実践する。		

研　究　の　実　施　内　容

実施月日	内　　容	備　考 (対象生徒等)
6 月 17 日	先進校訪問（愛知県立安城東高等学校） ・マルチメディア教室等の見学、設備やＩＣＴ活用に関する情報交換	・教頭、教務主任
6 月 24 日	先進校訪問（愛知県立知多翔洋高等学校） ・プレゼンテーションルーム等の見学、設備に関する情報交換	・教頭、教務主任
6 月 25 日	職員会議にてあいちラーニング推進事業に関する概要説明と研究推進者の募集	・教頭
7 月　7 日	研究推進委員の委嘱	
7 月　7 日	第１回研究推進委員会（於：校長室） ・事業内容の説明、授業アンケートの実施についての意見交換	・研究推進委員
7 月 16 日 ～10 月５日	授業アンケートの実施（詳細はＰ２）	・全教職員（非常勤も含む）
7 月 21 日	第２回研究推進委員会（於：校長室） ・研究テーマ、研究目標の設定、アクティブラーニングルームの設備に関する意見交換	・研究推進委員
7 月 30 日	名城大学教授・竹内英人先生の研究室訪問 ・名城大学教授の竹内英人先生に研究アドバイザーの依頼と本校の研究の概要説明と進め方についての打ち合わせ	・教頭、教務主任
9 月 1 日	第３回研究推進委員会 ・研究の進捗状況の確認と研究推進依頼	・研究推進委員
10 月 16 日	第４回研究推進委員会 ・アクティブラーニングルームの検討	・研究推進委員
10 月 30 日	授業アンケート分析報告書の提出〆切	・全教職員

11月９日 ～11月13日	校内研究授業週間・公開授業実施者による情報交換会（詳細はＰ３）	・国語、地歴公民、数学、理科、保健体育、英語、芸術科教員各１名
12月２日	アクティブラーニングに関する現職研修（詳細はＰ３） 講師：名城大学教授　竹内英人先生（於：視聴覚室）	・師範授業 １年５組生徒
12月14日	第５回研究推進委員会 ・公開授業案の検討、研究推進の依頼	・研究推進委員
12月16日	先進校（大府高校）公開授業参加	・教頭・研究推進委員
２月10日	公開授業・研究協議（於：本校アクテイブラーニングルーム） （詳細はＰ３） 助言者：名城大学教授　竹内英人先生 総合教育センター研究部教科研究室　伊藤卓哉研究指導主事 授業者：中西悦子教諭	・西三南地区の中学校、高等学校から12名が参加 ・２年６組生徒
２月19日	第６回研究推進委員会 ・公開授業の反省会	・研究推進委員
３月３日	職員会議にて成果発表会	・全教職員
３月下旬	本校ホームページにて報告書を掲載	

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

１　授業改善に向けた取組

(1) 授業アンケートの実施

ア アンケートの実施方法

(ｱ) 時期：７月16日（木）～10月５日（月）

(ｲ) 実施者：授業を担当する全教職員（再任用教諭・講師（非常勤）も含む）

(ｳ) 実施方法：担当する科目２科目を選び、それぞれの科目について１学級を抽出して行う。

(ｴ) アンケート書式：統一の書式で行う。（ただし、座学と実技で書式が一部異なる。今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点からペアワークに関する項目は削除する。）

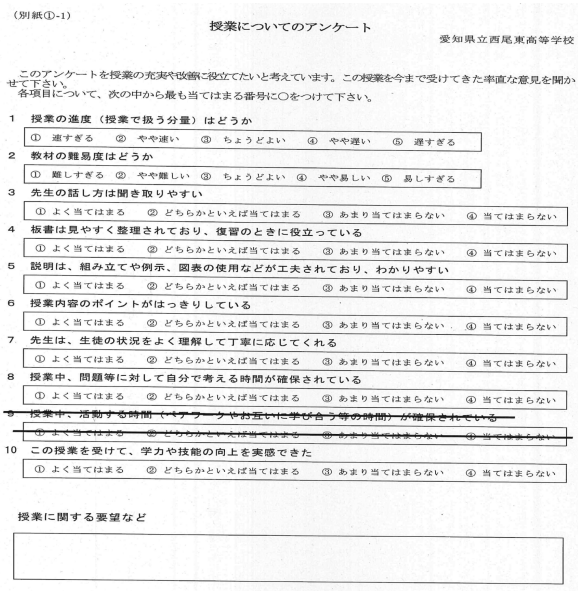
イ アンケート結果の集約と分析

各自で行い、「授業アンケート分析報告書」（指定の書式）にまとめ教頭に提出する。

報告期限：10月30日（金）

【授業アンケート書式】

(1) 座学用



（別紙①-1）

授業についてのアンケート

愛知県立西尾東高等学校

このアンケートを授業の充実や改善に役立てたいと考えています。この授業を今まで受けてきた率直な意見を聞かせて下さい。
各項目について、次の中から最も当てはまる番号に○をつけて下さい。

1 授業の進度（授業で扱う分量）はどうか
① 速すぎる　② やや速い　③ ちょうどよい　④ やや遅い　⑤ 遅すぎる

2 教材の難易度はどうか
① 難しすぎる　② やや難しい　③ ちょうどよい　④ やや易しい　⑤ 易しすぎる

3 先生の話し方は聞き取りやすい
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

4 板書は見やすく整理されており、復習のときに役立っている
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

5 説明は、組み立てや例示、図表の使用などが工夫されており、わかりやすい
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

6 授業内容のポイントがはっきりしている
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

7 先生は、生徒の状況をよく理解して丁寧に応じてくれる
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

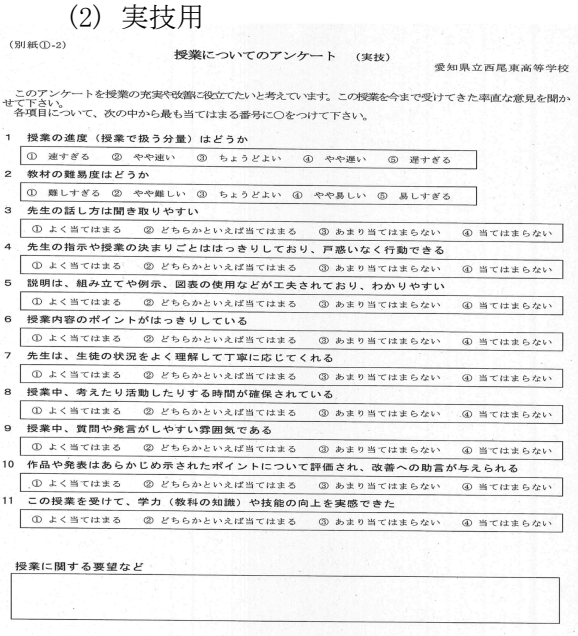
8 授業中、問題等に対して自分で考える時間が確保されている
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

~~9 授業中、活動する時間（ペアワークやお互いに学び合う等の時間）が確保されている~~
~~① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない~~

10 この授業を受けて、学力や技能の向上を実感できた
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

授業に関する要望など

(2) 実技用



（別紙①-2）

授業についてのアンケート　（実技）

愛知県立西尾東高等学校

このアンケートを授業の充実や改善に役立てたいと考えています。この授業を今まで受けてきた率直な意見を聞かせて下さい。
各項目について、次の中から最も当てはまる番号に○をつけて下さい。

1 授業の進度（授業で扱う分量）はどうか
① 速すぎる　② やや速い　③ ちょうどよい　④ やや遅い　⑤ 遅すぎる

2 教材の難易度はどうか
① 難しすぎる　② やや難しい　③ ちょうどよい　④ やや易しい　⑤ 易しすぎる

3 先生の話し方は聞き取りやすい
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

4 先生の指示や授業の決まりごとははっきりしており、戸惑いなく行動できる
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

5 説明は、組み立てや例示、図表の使用などが工夫されており、わかりやすい
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

6 授業内容のポイントがはっきりしている
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

7 先生は、生徒の状況をよく理解して丁寧に応じてくれる
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

8 授業中、考えたり活動したりする時間が確保されている
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

9 授業中、質問や発言がしやすい雰囲気である
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

10 作品や発表はあらかじめ示されたポイントについて評価され、改善への助言が与えられる
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

11 この授業を受けて、学力（教科の知識）や技能の向上を実感できた
① よく当てはまる　② どちらかといえば当てはまる　③ あまり当てはまらない　④ 当てはまらない

授業に関する要望など

【授業アンケート分析報告書の書式】

授業アンケート分析結果報告書

授業担当者氏名		職員名簿番号	
実施日時	令和　2　年　　月　　日（曜日）　第　　限		
対象学級	年　組　（生徒数　　名）		
科　目			
生徒から高く評価された点			
生徒からあまり評価されなかった点			
アンケート結果の分析と感想など			
今後の授業改善に向けて考えていること			

ウ 本取組の評価と課題

授業アンケートの実施により、授業の改善点について、教員が各自で分析し、改善に役立てている。主体的に学習する生徒を育成するために、「自分で考える時間の確保」「学力や技能の向上の実感」の項目やＩＣＴを利用した授業展開の工夫についての課題等があげられている。

(2) 研究授業週間

ア　目的

(ｱ) 研究授業を実施、参観することにより、相互の授業力を高める契機とする。

(ｲ) 教員が互いの授業を参観することにより、授業改善の一助とする。

イ　期日

11 月 9 日（月）～13 日（金）

ウ　研究授業

(ｱ) 研究授業担当者

・国語［国語総合］授業者：教諭　河合啓子（研究推進委員）
・地歴公民［日本史Ｂ］授業者：教諭　中村花菜
・数学［数学Ｂ］授業者：教諭　中西悦子（研究推進委員）
・理科［化学基礎］授業者：教諭　水谷成吾（研究推進委員）
・保健体育［体育］授業者：教諭　水野大輔
・英語［コミュニケーション英語Ⅱ］授業者：教諭　服部佑香
・芸術［美術Ⅰ］授業者：再任用教諭　野々山勝彦

(ｲ) 方法

(a)　指導略案を作成し、自分の教科の教員に配付する。

(b)　授業参観者は、参観後に「感想用紙」を記入し、実施者に渡す。

エ　研究授業週間の取組状況とその成果及び普及について

研究授業週間では、教科の垣根を越え、他教科の授業を参観する教員も多くいた。ＩＣＴ機器を用いた授業も多く、ＩＣＴ機器の授業での活用方法等について、授業担当者と参観者が意見交換や情報の共有をすることができた。その他、研究授業で得たことを、自分の授業に還元し、授業改善に役立てることができた。

２　現職研修

(1)　日時：12 月２日（水）（２学期期末考査最終日）11:20～12:40

(2)　講師：名城大学教授　竹内英人先生

(3)　内容：「主体的・対話的で深い学び」についての竹内先生による師範授業及び講義

11:20～12:10　１年５組生徒対象に竹内先生の師範授業

12:10～12:40　本校教職員を対象に「主体的・対話的で深い学び」についての講義

12:50～13:30　研究推進委員との意見交換

(4)　概要

ア　竹内先生による師範授業

１年５組の生徒を対象にした竹内先生による師範授業は、新幹線の座席の座り方、部活動の合宿の宿泊の部屋割りについて等、身近な話題を例に挙げ、クラス全体で課題を解決するよう導くものであった。最終的には、整数の基本定理に繋がっていく授業内容になり、身近な事象を例に思考力・判断力を育む授業であった。

イ　竹内先生による講義

竹内先生から、「素直、受け身的、指示待ちの生徒が多い集団であり、本校生徒こそ主体的に学ぶ姿勢が必要である。」とご指摘をいただいた。その解決のための１つの取組として、課題の提示の工夫がある。「How 型の解き方（暗記）の知識重視型の課題の提示ではなく、Why 型の思考力・表現力・判断力の育成を重視した課題の提示をしていくことが必要である。」とご助言をいただいた。

３　公開授業・研究協議

(1) 日　時：２月 10 日（水）13:40～16:20

(2) 会　場：本校アクティブラーニングルーム

(3) 参加者：西三河南地区の中学校、高等学校から 12 名、本校職員

(4) 助言者：名城大学教授　竹内英人先生

総合教育センター研究部教科研究室　伊藤卓哉研究指導主事

(5) 日　程：

13:40～14:10　全体会（学校長挨拶、概要説明、授業担当者による授業説明）

14:20～15:10　研究授業　数学Ｂ　（２年６組生徒 20 名）授業者：中西悦子教諭

15:20～16:20　研究協議（授業者による説明と振り返り、質疑応答、助言者によるご助言）

(6) 研究授業

今回の研究授業では、「薬効成分の体内残存量と数列の関係」という日常の事象を題材として生活と結び付けることにより、生徒が主体的に問題を解く必然性を見いだし、意欲的に課題解決しようとする態度の育成につなげることを目的とした。また、作問に取り組ませることにより、新たな問いを立て、それを自ら解決していくという主体的な活動を取り入れた。授業の中では、ＩＣＴ機器を利用し、生徒の解答をタイムリーにクラス全体で共有したり、グラフを投影し、タッチペンで書き込みを行うなど、電子黒板を活用した。

４　校内成果発表会

３月３日（水）の職員会議にて、あいちラーニング事業１年目の実践報告を行った。公開授業の報告、本事業の研究目標の再確認、来年度に向けての課題等について、教職員全体で情報共有することができた。

５　来年度に向けて

(1) 授業での探究的な活動の充実を全教科に広げていき、教職員全体で主体的に学習に取り組む生徒の育成をしていきたい。そのために、教職員全員が、一過性のものではなく、持続可能な取組を模索し、さらなる授業改善を進めていきたい。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の評価について、観点別評価の中の「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法と合わせて考えていきたい。

(3) ＩＣＴのさらなる活用を目指していきたい。今年度、配備された生徒用タブレットを授業で利用し、生徒が主体的に学習に取り組む授業を構築していきたい。